



新 毎 日 新 聞

発行所: 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 〒100-8051 電話(03)3212-0321
郵便振替口座 00180-3-2800
毎日新聞東京本社 © 毎日新聞社 2004

日本ドッグホーム協会代表

白井睦子さん(44)

「何とか世話を頼みたい」。静岡市内に住む老婦人の遺言のような言葉だった。女性が亡くなって残されたのはゴールデンレトリバーなど3匹の犬たち。保健所に引き渡せば、3匹は棄殺を免れない。散歩や掃除などの世話を請け負う「ペットシッター」として通っていた白井さんは、引き渡すことなどできなかつた。「可愛くて、放って置けなくて」。その経験が3年前に、日本ドッグホーム協会を設立するきっかけとなった。



高齢者の“家族”を守る

協会は、高齢者が手放すことを余儀なくされたペットを引き取り、世話をする活動を求めている。毎月150万円の経費がかかるが、資金不足は深刻だ。現在は活動に理解が得られ、刻々と活動に理解が得られていく。現在、静岡市清水の施設で犬40匹と猫80匹の面倒を見ている。全国的にもこのような活動は少なく、動物の半数は関東圏から集ま



り、北海道から九州まででも助けるための活動」でも助けるための活動」もあつた。現代社会が抱える問題とペットの関係は密接で、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)が原因で別居するために犬を引き取ってほしいという要望や、不況で倒産した家族が大犬だけ柱に縛り付けて自宅から

しらい・むつこ 旧清水市出身。ペットの美容室「ベネット」を経営。自宅では、虐待を受け失明していたため保護したミニチュアダックスフントの「ララ」と暮らす。協会の活動ボランティアや支援者を募集しており、問い合わせは同協会(0543・44・1540)。

ペットの家族化が進む現代。世話に困った飼い主の「駆け込み寺」となった施設内には、白井さんの姿にしばしば涙があふく。犬たちが並ぶ。核家族化や少子高齢化の社会にしたのは人間の都合。互いにもっと協力して善後を固めないと、この問題はますます深刻になるでしょう」